

施策評価シート(対象:H28年度実施施策)

H29年度評価

施策名	学習しやすい環境整備の充実(博物館)			総合計画コード	324
部名	生涯学習部	主管課名	文化財課	主管課部課コード	120500
関連部課名	—				

1. 施策概要

めざす 目的成果	博物館は生涯学習活動拠点の教育施設として、郷土の歴史に触れあうとともに学習活動に活用されている。また、環境整備に努め、利用者が安全・安心に利用できている。				
施策概要	収集方針に基づいた郷土の様々な歴史的資料を、収集・保存し活用を図る。また安全・安心して利用できるように施設管理に努める。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度	～ H 34 年度
		第2次朝霞市生涯学習計画後期基本計画		H 24 年度	～ H 28 年度
				H 年度	～ H 年度

2. 実施結果

H28年度の 施策の実施内容	・運営事業では、文化財資料や博物館資料を活用し、企画展示(「小さな銅鐸を追って」)・テーマ展示(「つくろう自然のコレクション2」「あさか・しき・にいざ・わこう四市合同丸沼芸術の森コレクション展」)、ギャラリー展示(「あさかの古墳」「みんなあーちすと」「県展作品展」「収蔵資料刀剣 研磨修復報告」)、資料紹介展示(「独楽」「学芸員実習生展示」)、玄関展示(「ワタから糸へ」)を実施した。教育普及事業では、博物館体験教室(全5回)、夏休み体験教室(全5回)、歴史講座(全5回)、古文書講座(全6回)と博学連携事業(「博物館利用授業」、「博物館利用検討委員会」)を実施した。また開館20周年事業として「四市合同丸沼芸術の森コレクション展(再掲一部省略)」「入館者100万人達成記念セレモニー」を実施した。 ・管理事業では、年間を通して施設の保守点検のほか空調設備故障に伴う改修工事を2件(・講座室等(H28年10月～H29年3月)・エントランス等(H29年1月～6月))と緊急修繕(防犯カメラ等)を実施した。					
H28年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	来館者が安全に利用し、資料の適正な保管ができる施設管理				
	子育てがしやすいまち	家族で参加できる体験学習の実施と学校団体の受入れの充実				
	つながりのある元気なまち	各種展示や教育普及事業による生涯学習機会の提供により、市民の交流を促進する				
	自然・環境に恵まれたまち	市内の歴史や文化、自然環境を調査研究し、展示や教育普及を通じて市民の学習機会を提供する				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度(見込)	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
		111,590	—	—	—	—

指標名 (説明)		単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
			目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
			実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)
①	博物館入館者数	人	52,300	52,600	52,900	53,200	53,500
	(説明) 博物館に見学に訪れた人や 講座などに参加した人の数		49,819	—	—	—	—
②							
	(説明)			—	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点)☐ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ☒ B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点)☐ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ☐ C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 平成28年度は博物館開館20周年を迎え、10月23日に開館からの累計入館者が100万人を達成した。また、10月に開催した「あさか・しき・にいざ・わこう四市合同丸沼芸術の森コレクション展」では朝霞市博物館の入館者は5,405人(1日平均270人)、4市5会場で計19,188人を記録でき、博物館は生涯学習の学びの場として、各種展示や教育普及事業を通じて市民の学習機会を提供することができた。 施設管理では、施設の老朽化が進む中、空調設備の改修工事を実施したことで、施設の安全と快適性を確保ができた。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☐ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ☐ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ☒ B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ☐ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 生涯学習計画において生涯学習推進拠点の充実を掲げており、市の歴史や文化を学び、郷土に対する愛着を深めてもらえるよう、魅力ある展示や講座の企画を行うとともに文化財の適切な保存に努める必要がある。また、施設は20年を経過し老朽化が進んでいることから、適切な管理と計画的な修繕や改修を進め、誰もが快適に利用できる環境整備の必要性が高い。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 市民等から提供を受けた博物館資料は8万点を超え、収蔵庫がほぼ満杯となっており、新たに大型資料の受入が難しい状況である。中でも、膨大な点数の古文書は読み解くには専門的な知識を有することから調査研究が進まないことが課題となっている。施設管理では20年を経過し老朽化が最大の問題点であり、電気設備もそのほとんどが更新時期にある。

4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☒ 重点化 ☐ 内容の見直し					
	(説明) 博物館資料をあらたに収集するためには、収蔵庫に構造上限りがあることからスペース確保の検討をしていく。また、膨大な古文書においては、専門職員及び専門調査員の体制を厚くする努力を講じるとともに、古文書に関する団体と協働しながら読み解きを進めていく。展示事業や教育普及事業(特に博学連携事業)は企画や内容の充実を図り継続して取り組んでいく。 施設管理においては、市で進めている朝霞市公共施設等総合管理計画にそった修繕や改修工事を行っている。					
行政と市民の役割分担	☐ I 行政の関与(役割)を拡大 ☒ II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ☐ III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 膨大な博物館資料の古文書においては、ボランティア団体との継続した連携を図る。また、他の資料においても専門的な見識を有する方々協力がえられれば協働しながら調査・研究を推進する。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性
		H27決算	H28決算見込			
	1 博物館運営事業	41,273	44,040	4	3	現状のまま
	2 博物館管理事業	40,733	37,792	4	3	現状のまま
	3 博物館施設改修事業	—	29,758	3	4	H29で休止・廃止・終了
	4					
	5					
	計 (単位:千円)	82,006	111,590	—	—	—
☐ 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載						
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【博物館協議会】 博物館資料を勉強して博物館事業に協力いただける団体があれば、協働していくことは大切である。					
部長の意見	朝霞市博物館は平成9年2月開館から20年を迎えた。この間多くの方々にご利用いただき、平成28年10月23日に入館者100万人を達成することができた。博物館は立地条件が良いとはいえないもののこのような実績をあげられたことには、各種展示や教育普及事業の企画や博学連携事業で市内小中学校との連携を図ってきた努力を評価する。今後も市民に親しまれ、生涯学習推進拠点の施設として、さらに充実した管理運営に努める。					